

No.SBF1314 (2022.11.17)

## 働く人の相棒「BOSS」発売30周年

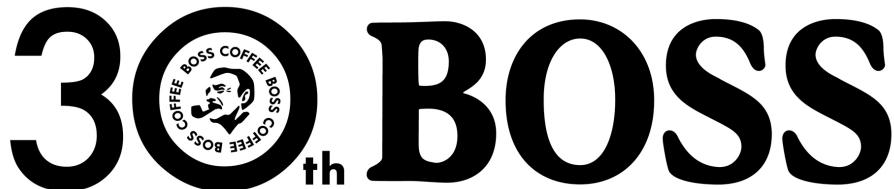
## 働く人の意識調査

## #大人になりたい職業ランキング 2022

もしも、どんな職業にもなれるならなりたい職業 第1位は「医師」  
さらに！この30年間で生まれた「新職業ランキング」も発表。

第1位は「公認心理師」

— 理由は「人や世の中の役に立ちたい」「コロナ禍で改めて尊敬  
人と社会に寄り添う職業に注目か？ —



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/> に掲載しています。

サンタリー食品インターナショナル（株）は、1992年に発売した“働く人の相棒”「BOSS」の30周年を記念して、30代～60代の働く男女を対象とした「大人になりたい職業調査」を行いました。この30年間でさまざまな職業が誕生し、職場の環境や働き方も大きく変化しています。アンケートで明らかになった「今なりたい職業」やその理由から、現代の大人の「働くこと」に対する価値観をひもときました。主な調査結果は以下の通りです。

**「働く人の相棒「BOSS」発売30周年働く人の意識調査」調査概要**

- 実施時期 : 2022年10月14日（金）～10月19日（水）
- 調査手法 : インターネット調査
- 調査対象 : 30代～60代の働く男女1,500人（人口構成比および有職者構成比で割り付け）
- 調査委託先 : マクロミル★構成比（%）は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## 〈働く人の相棒「B O S S」発売30周年 働く人の意識調査〉

- 今、なりたい職業ランキング、1位「医師」、4位に「看護師」がランクイン。  
この30年間で生まれた新職業ランキングでは、1位に「公認心理師（心理カウンセラー）」がランクイン。コロナ禍で医療職への注目が集まつたことに加えて、心のケアの必要性を再認識する場面が増えたと考えられる。「人を助けたい、人の役に立ちたい」という想いが表れている結果に。
- 今なりたい職業、新職業ランキング共に選んだ理由の1位は共に「やりがい」。給与や待遇面、仕事の将来性よりも、「やりがい」が重要視されている結果に。
- 「働く上で大切にしていること」は「やりがい」「ワークライフバランス」「人とのつながり」など。多様な価値観が表れている。



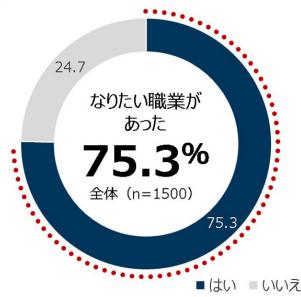
30代～60代の働く大人に聞いた職業ランキング

## 〈働く大人たちが、子どもの頃になりたかった職業〉

### ■今の大人が子どもの頃になりたかった職業TOP3

1位「野球選手」、2位「保育士・幼稚園教師」、3位「教師・教員・講師」  
30代～60代の働く大人1,500人を対象に、職業に関する調査を行いました。  
まず、子どもの頃になりたい職業があったかと聞くと、4人に3人が「なりたい職業があった」(75.3%)と答えました[図1]。  
なりたかった職業を具体的に聞くと、1位「野球選手」(7.7%)、2位「保育士・幼稚園教師」(7.3%)、3位「教師・教員・講師」(6.8%)、4位「警察官」(4.9%)、5位「パイロット」(4.8%)の順となりました[図2-1]。  
なりたいと思った理由を聞くと、「好きなことだったから」(37.3%)、「かっこいいと思ったから」(35.8%)が上位に挙げられました[図2-2]。  
好きな仕事に真っすぐに向き合う、夢や憧れがストレートに感じられます。

**[図1] 子どもの頃になりたかった職業の有無**  
Q.あなたは子どもの頃になりたかった職業がありましたか？

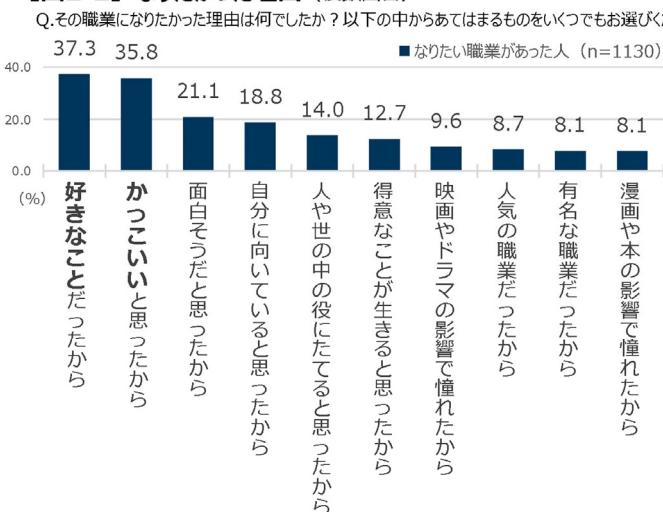


**[図2-1] 子どもの頃になりたかった職業（自由回答）**  
Q.あなたが子どもの頃になりたかった職業は何ですか？

1位	<b>野球選手</b>	7.7
2位	<b>保育士・幼稚園教師</b>	7.3
3位	<b>教師・教員・講師</b>	6.8
4位	警察官	4.9
5位	パイロット	4.8
6位	看護師	4.7
7位	運転士（バス・電車）	3.8
8位	漫画家	3.4
9位	医師・歯科医師	2.9
10位	キャビンアテンダント/フライトアテンダント	2.7

子どもの頃になりたい職業があつた人 (n=1130) (%)

**[図2-2] なりたかった理由（複数回答）**



## ■子どもの頃になりたかった職業になれた大人は 6.5 %

1位「保育士・幼稚園教師」、2位「教師・教員・講師」「看護師」、4位「会社員」  
次に、いま現在、子どもの頃になりたかった職業になったかと聞くと、「なった」  
6.5%、「近しい職業になった」4.2%となり、ほぼ9割が「ならなかつた」  
(89.3%)と答えています〔図3-1〕。なりたかった職業になったと答えた  
73人に現在の職業を聞くと、「保育士・幼稚園教師」(15.1%)、「教師・教員・  
講師」「看護師」(同率13.7%)、「会社員」(9.6%)、「美容師・理容師」(8.2%)  
の順となりました〔図3-2〕。少數ながらも、子どもの頃になりたかった職業を  
実現している大人たちがいます。

**[図3-1] 子どもの頃になりたかった職業になった**  
Q.あなたは今、子どもの頃になりたかった職業になりましたか？



**[図3-2] 子どもの頃になりたかった職業になった人の現在の職業**

Q.あなたが子どもの頃になりたかった職業は何ですか？		
Q.あなたは今、子どもの頃になりたかった職業になりましたか？		
1位	<b>保育士・幼稚園教師</b>	15.1
2位	<b>教師・教員・講師</b>	13.7
	<b>看護師</b>	
4位	会社員 (OL・サラリーマン・キャリアウーマン含む)	9.6
5位	美容師・理容師	8.2
6位	公務員・官僚	5.5
7位	エンジニア	4.1
8位	研究者／医師・歯科医師／ダンサー／ 獣医師・動物看護師／お母さん・お父さん・お嫁さん	2.7

子どもの頃になりたい職業になった人 (n=73) (%)

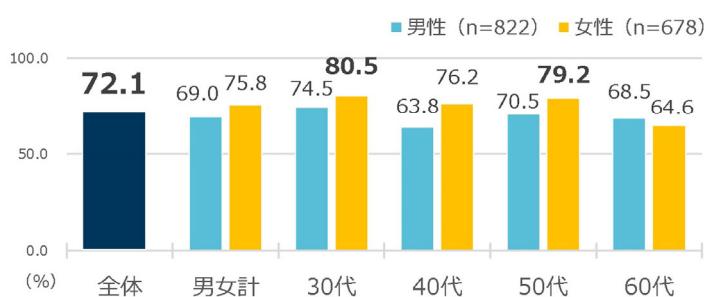
## 〈働く大人たちが、今なりたい職業〉

### ■キャリアや環境・条件に左右されずどんな職業にでもなれるとしたら、7割が「チャレンジしたい」

大人になった今、どんな職業にでもなれるとしたら、現在とは別の職業にチャレンジしたいか聞きました。性別や年齢、職業・キャリア、スキル、経済状況、家族構成・人間関係、居住地などの諸条件を一切考慮せずに、答えてもらいました。すると、全体の72.1%が「新しい職業にチャレンジしたい」と答え、男性(69.0%)より女性(75.8%)の意向が高く、中でも30代(80.5%)と50代(79.2%)の女性のチャレンジ意向が8割と高くなっています [図4]。

【図4】別の職業へのチャレンジ意向

Q.今、どんな職業にでもなれるとしたら、現在とは別の新しい職業にチャレンジしたいですか？



### ■働く大人が今なりたい職業TOP3

第1位「医師」、第2位「社長・起業家」、第3位「パイロット」。なりたい理由は第1位は「やりがい」

チャレンジしたい職業があると答えた1,081人に、具体的になりたい職業を聞くと、1位「医師」(6.6%)、2位「社長・起業家」(4.3%)、3位「パイロット」(3.5%)の順となりました [図5]。なりたい理由を聞くと、医師は「人を助けたい」「社会の役に立ちたい」が多く、新型コロナという世界的なパンデミックを経験し、社会の役に立ちたいという意識がより強くなっているようです。また、社長・起業家になりたい理由は「自分の力を試してみたい」、パイロットは「憧れ」「子どもの頃からなりたかった」という声が多く寄せられました。また、なりたい職業を選んだ理由を選択肢の中から答えてもらうと、「やりがい」(49.6%)がいちばんの理由となりました [図6]。大人の純粋な職業選択は、「やりがい」がいちばんの動機となるようです。

[図5] どんな職業にもなれるなら、今、なりたい職業（全体）（自由回答）

Q.あなたが今、どんな職業にでもなれるとしたら、なりたい職業は何ですか？

1位	医師	6.6
2位	社長・起業家	4.3
3位	パイロット	3.5
4位	看護師	3.3
5位	公務員・官僚	3.3
6位	弁護士（国際弁護士含む）	2.9
7位	教師・教員・講師	2.5
8位	芸能人・タレント・俳優	2.5
9位	ミュージシャン・歌手・声楽家	2.3
10位	政治家	2.2

チャレンジしたい職業がある人（n=1081）（%）

[図6] なりたい理由（複数回答）

Q.改めてお伺いします。あなたが今純粋になりたい職業を回答した理由は何ですか？

1位	やりがいがある	49.6
2位	専門性が高い	33.3
3位	好きなことである	30.9
4位	面白そうだと思う	27.0
5位	社会貢献できる	22.6
6位	給与や待遇面が良い	22.1
7位	かっこいいと思う	21.9
8位	人から感謝される	20.2
9位	自分に向いていると思う	19.8
10位	モチベーションを保てる	18.3

チャレンジしたい職業がある人（n=1081）（%）

### 「医師」になりたい理由

#### 人を助けたい、役に立ちたい

- 災害時、病気やけが人の力になれ、たくさんの人を救える可能性が高いから（40代女性）
- 田舎に住むようになって、医療の必要性を感じたから（40代女性）
- 医者は人を助ける仕事だし、世の中の役に立つと思う。自分も助けられた経験があるので、その人に憧れてなりたかった。（50代男性）
- 家族に難病患者がいるので（60代男性）

#### コロナ禍を経験して

- 新型コロナの状況下で人の役に立てる仕事だと思ったから（40代男性）
- コロナ禍の中、最前線で人の命を救う医師という職業に敬意を払い、自分も皆が幸せな人生を送れるよう全力で頑張ってみたい（40代女性）
- コロナ禍の現状で、医師という職業で尊敬の感情しかなく、医師でなどと医療に関係した職に就き、社会貢献がしたいと思うから（60代女性）

#### 医師への憧れ、感謝

- 幼少期、よく医者にかかっていました。親身にしていただけたので、職業として憧れます（40代男性）

### 「社長・起業家」になりたい理由

- 自分の好きなことを仕事にしたい、ブランドを立ち上げてやりがいのある仕事をしたいから（30代女性）
- 自分の考え方、組織統率力を試してみたい（50代男性）

- 30年会社員として勤めているが、近い将来、起業し、教育、学習支援領域の世界輸出をしたい（50代男性）

### 「パイロット」になりたい理由

- 高度な機械の操作、英語、人の命を預かる責任感、高収入など普通の人ではなれない特別感があつて憧れる（30代男性）
- 子どもの頃になりましたかった職業でもあり、現在も興味がある。もう一度職業を選べるのならば、頑張ってパイロットを目指す（40代男性）
- 空への憧れがあること、絶対になれない職業だと思っているので、よけいに憧れる。飛行機で宇宙に行ったら面白いだろう、そんな期待も込めてなってみたいと思う（60代女性）

## ■働く大人が今なりたい職業 男女共に「医師」がトップに

前述図5の今、大人がなりたい職業ランキングを男女別に見ると、男女とも「医師」がトップで、男性では「パイロット」も同率1位、女性は2位が「看護師」でした。女性の3位は「社長・起業家」ですが、男性は「公務員・官僚」が3位で、女性よりも安定志向が強いようです。年代別に見ると、30代のトップは「社長・起業家」ですが、40代以降は「医師」がトップという結果になりました〔図7〕。

[図7] どんな職業にもなれるなら、今、なりたい職業（性別／年代別）（自由回答）

Q.あなたが今、どんな職業にでもなれるとしたら、なりたい職業は何ですか？

#### ●男性 TOP5 (n=567)

1位	医師	5.6
2位	パイロット	
3位	公務員・官僚	4.4
4位	社長・起業家	4.2
5位	政治家	3.9

#### ●女性 TOP5 (n=514)

1位	医師	7.6
2位	看護師	7.0
3位	社長・起業家	4.3
4位	薬剤師	3.3
	キャビンアテンダント/フライトアテンダント	

#### ●30代TOP5 (n=257)

1位	社長・起業家	6.2
2位	医師	4.7
3位	看護師／薬剤師	3.5
4位	パイロット／野球選手	2.7
5位		

#### ●40代 TOP5 (n=317)

1位	医師	7.6
2位	社長・起業家	3.8
3位	公務員・官僚	3.5
4位	パイロット	2.8
5位	看護師／芸能人・俳優	2.5

#### ●50代 TOP5 (n=310)

1位	医師	6.1
2位	看護師	5.2
3位	公務員・官僚	4.8
4位	政治家	3.5
5位	パイロット／弁護士	3.2

#### ●60代 TOP5 (n=197)

1位	医師	8.1
2位	パイロット	6.1
3位	社長・起業家	4.6
4位	野球選手／弁護士／教師／芸能人・俳優	4.1
5位		

## ■子どもの頃になりたかった職業と今なりたい職業、9割が違う職業を選択

子どもの頃になりたかった職業（図2－1）と、大人になった今なりたい職業（図5）の各個人での変化を調べ、全体（1,500人）の中での割合を見てみました。すると、両者が変わらない人は8.1%と少なく、全体の91.9%は、子どもの頃になりたかった職業ではなく、新たな職業を選んでいます[図8]。子どもの頃は「好き」「かっこいい」が職業選択の動機でしたが、大人になると「やりがい」が大きくなり、なりたい職業も大きく変わっていくようです。

[図8] 子どもの頃になりたかった職業と  
今、なりたい職業

Q.あなたが「子どもの頃になりたかった職業は何ですか？」  
Q.あなたが今、どんな職業にでもなれるしたらなりたい職業は何ですか？



## 〈この30年間で生まれた新しい職業　なりたいランキング〉

### ■この30年間で生まれた新しい職業でなりたい職業TOP3 「公認心理師」

#### 「S E」「F P」　なりたい理由は「やりがい」

平成から令和にかけての30年間で、YouTuber やパーソナルトレーナーなどさまざまな新しい職業が誕生しています。これらの新しい職業の中から、事前の調査で認知度の高かった代表的な30種の職業を提示し、なりたい職業を選んでもらいました。その結果、「公認心理師（心理カウンセラー）」（12.7%）、「システムエンジニア（S E）」「ファイナンシャルプランナー（F P）」（同率10.9%）がなりたい職業の上位に選ばれました[図9]。なりたい理由を自由回答で聞くと、公認心理師は「困っている人を助けたい」、システムエンジニアは「今後の可能性」、ファイナンシャルプランナーは「人の役に立ちたい」といった意見が多く寄せられました。選択肢の中から選んでもらうと、やはり「やりがい」（35.5%）が一番の理由となっています[図10]。

【図9】この30年間で生まれた新職業なりたいランキング（全体）（複数回答）

Q.この約30年間で生まれた新しい職業のうち、あなたがなりたい職業を全てお選びください。



【図10】新職業、なりたい理由（複数回答）

Q.改めてお伺いします。あなたが最もなりたい新しい職業を選んだ理由は何ですか？



## ■新職業なりたいランキング 男性は「S E」「デイトレーダー」、女性は「公認心理師」「野菜ソムリエ」

前述図9の新職業なりたいランキングを男女別で見ると、男性は「システムエンジニア」(15.2%)、「デイトレーダー」(14.4%)、「YouTuber」(10.5%)、女性は「公認心理師」(18.7%)、「野菜ソムリエ」(14.2%)、「動物看護師」(13.7%)がTOP3となりました。年代別で見ると、30代・40代は「YouTuber」「デイトレーダー」が上位3位内にランクインしているのに対し、50代以降は「公認心理師」や「野菜ソムリエ」の人気が高くなっています[図11]。

【図11】この30年間で生まれた新職業なりたいランキング（性別／年代別）（複数回答）

Q.この約30年間で生まれた新しい職業のうち、あなたがなりたい職業を全てお選びください。

●男性 TOP10 (n=822)	●女性 TOP10 (n=678)
1位 システムエンジニア 15.2	1位 公認心理師 18.7
2位 デイトレーダー 14.4	2位 野菜ソムリエ 14.2
3位 YouTuber 10.5	3位 動物看護師 13.7
4位 ドローンパイロット 10.3	4位 ファイナンシャルプランナー 12.2
5位 ロボットエンジニア 10.0	5位 ウエディングプランナー 11.5
6位 ファイナンシャルプランナー 9.7	6位 ネイリスト 9.0
7位 環境コンサルタント 9.5	7位 終活ライフアドバイザー 8.4
8位 WEBプログラマー 9.4	8位 ケアマネジャー（介護支援専門員） 7.7
9位 AI開発者 8.0	9位 WEBプログラマー 7.5
10位 公認心理師／ホワイトハッカー 7.7	10位 YouTuber 7.2
(%)	(%)

●30代 TOP10 (n=333)	●40代 TOP10 (n=456)	●50代 TOP10 (n=416)	●60代 TOP10 (n=295)
1位 YouTuber 14.1	1位 システムエンジニア 13.6	1位 公認心理師 14.7	1位 公認心理師 14.9
2位 デイトレーダー 12.6	2位 デイトレーダー 12.9	2位 ファイナンシャルプランナー 10.8	2位 野菜ソムリエ 12.9
3位 ファイナンシャルプランナー 11.4	3位 YouTuber 11.6	3位 野菜ソムリエ 9.6	3位 システムエンジニア 11.5
4位 公認心理師 11.1	4位 ファイナンシャルプランナー 11.4	4位 システムエンジニア 9.1	4位 ドローンパイロット 9.8
5位 インフルエンサー 10.5	5位 公認心理師 10.5	5位 デイトレーダー 8.4	5位 環境コンサルタント 9.8
6位 WEBプログラマー	6位 動物看護師 10.3	6位 WEBプログラマー 8.2	6位 ファイナンシャルプランナー 9.5
7位 システムエンジニア 8.7	7位 WEBプログラマー 8.8	7位 AI開発者 7.7	7位 ロボットエンジニア 9.2
8位 ホワイトハッカー（ハッキング対策） 8.1	8位 野菜ソムリエ 6.8	8位 動物看護師 7.7	8位 デイトレーダー 7.5
9位 ネイリスト 7.8	9位 環境コンサルタント 6.6	9位 ドローンパイロット 7.5	9位 キャリアコンサルタント 7.5
10位 WEBコンテンツ制作者 7.5	10位 ドローンパイロット	10位 ホワイトハッカー／キャリアコンサルタント 7.2	10位 終活ライフアドバイザー 7.5
(%)	(%)	(%)	(%)

## ■今いる業界と新しい職業 関連性のある職業が選ばれやすい？！

現在働いている業界別に、新職業なりたいランキングを見てみました。すると、建設業で働く人は「環境コンサルタント」(20.5%)、金融・保険業界で働く人は「ファイナンシャルプランナー」(19.5%)、ソフトウェアや情報サービスで働く人は「システムエンジニア」(27.5%)がなりたい新職業の1位となっています【図12】。

今の仕事と新職業との関連性がうかがえる結果となっており、現職の経験やスキルが生かせることも新職業への関心へつながっているようです。

【図12】今いる業界別、新職業なりたいランキング（複数回答）

Q.この約30年間で生まれた新しい職業のうち、あなたがなりたい職業を全てお選びください。

●建設業 (n=78)	●金融業・保険業 (n=82)
1位 環境コンサルタント 20.5	1位 ファイナンシャルプランナー 19.5
2位 YouTuber 12.8	2位 システムエンジニア 14.6
3位 FP／キャリアコンサルタント／CGデザイナー 10.3	3位 デイトレーダー 12.2
(%)	(%)

●ソフトウェア・情報サービス業 (n=69)	●医療業 (n=111)
1位 システムエンジニア 27.5	1位 公認心理師 17.1
2位 WEBプログラマー 15.9	2位 野菜ソムリエ 15.3
ホワイトハッカー（ハッキング対策）	3位 オンライン診療医師 14.4
(%)	(%)

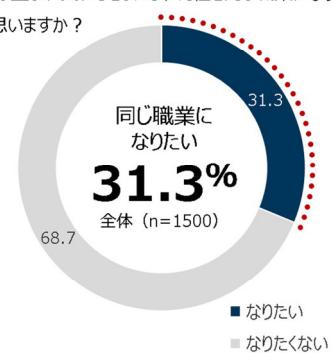
〈働く大人の職業選択は「やりがい」が決め手に〉

■生まれ変わって同じ職業になりたい人もなりたくない人も、理由は「やりがい」の充実にアリ！

新しい職業が誕生し、多様な働き方が選択できる現在。もし生まれ変わるとしたら、現在と同じ職業になりたいと思うかと聞くと、3割は「なりたい」(31.3%)、7割は「なりたくない」(68.7%)と答えました〔図13〕。同じ職業になりたいと答えた人にその理由を聞くと、「やりがいがあるから」「うまくいくとうれしい」など、今の職業にやりがいを感じているので、同じ職業になりたい、という意見が多く挙げられました。一方、今と同じ職業にはなりたくないと答えた人は、その理由として、「もっと勉強しておけばよかった」といった後悔が大きく、次のチャンスがあれば「興味のある仕事」や「好きなこと」をしたいなど、やはりやりがいを求めて他の職業を目指すという人が多くなっています。前述図6・図10の結果の通り、大人の職業選択において「やりがい」は外せない条件となっているようです。

〔図13〕もし生まれ変わるとしたら…

Q.もし生まれ変わるとしたら、現在と同じ職業になりたいと思いますか？



Yes

今と同じ職業に「なりたい」理由

- 今の仕事が好きで興味もやりがいもある。勉強しないと置いてきぼりにされるし、飽きることがなく常に勉強できる（40代女性）
- 建設現場で作業しているうちに、建物が徐々に完成していくことにやりがいを感じるから（40代男性）
- サラリーマンになって42年が過ぎた。叱られたり怒鳴られると嫌な気分にならなかったが、褒められたときは今でも単純にうれしいし、後輩が言うことを聞いてくれてうまくいったときも素直にうれしい。サラリーマンとして安定した家庭生活を送ることもできだし、良い職業である（60代男性）

No

今と同じ職業に「なりたくない」理由

- 家族に責任があるので仕事は割り切っている。独身からやり直せるなら自分の興味のある仕事にチャレンジしたい（40代男性）
- 今の職業は成り行きでなったので、今度は「好きなこと」がしたい（40代女性）
- 仕事をしたことであまり他人に感謝されることが少なく、苦労の割に収入も少ない（60代男性）
- 若い時にもっと勉強しておけばよかったと思う。普通的一般事務で終わったので何か専門性のある続けられる職業がよかつたと思う。今の時代はたくさんの選択肢があってうらやましい（60代女性）

## ■働く上で大切なこと、精神的な「やりがい」　生きるための「バランス」 社会との「つながり」

最後に、働く上で大切にしていることを聞きました。「やりがいと給料のバランス」（30代男性）、「オンとオフの切り替え」（40代女性）、「やりがいやワクワク」（50代男性）など、さまざまな意見が寄せられました。意見を分類すると、自分のための「やりがい」、生活のための「バランス」、社会との「つながり」が大事にされているようです。

働く上で大切にしていること（自由回答）

自分のための「やりがい」	生活のための「バランス」	社会との「つながり」
<ul style="list-style-type: none"><li>●やりがいと給料のバランス（30代男性）</li><li>●自分の価値観に合っている（30代男性）</li><li>●1位やりがい、2位人間関係、3位成 果に見合った報酬（40代男性）</li><li>●社会の役に立つこと、自分自身がやりがい があり、楽しく働けること（40代女性）</li><li>●仕事にやりがいを持ち、常にスキルアップを 目指してきたい（50代女性）</li><li>●やりがいとかワクワクとか没頭できることが 大切（50代男性）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●コミュニケーションとチームワーク（30代女性）</li><li>●オンとオフの切り替え（40代女性）</li><li>●家族との時間と仕事のワークライフバラン ス（50代男性）</li><li>●プライベートと労働とをきっちり分け、それ ぞれが充実したものになるように、集中し て取り組むこと（60代男性）</li><li>●まずは自分自身が精神的にも肉体的に も健康であることが一番大事であると思っ ている（60代女性）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●自分の仕事が世の中や消費者とどんな 接点を持っているか常に考える（30代 女性）</li><li>●人ととの出会いとつながり。コロナ禍に なって改めて実感（40代女性）</li><li>●できる限り人の役に立つ、できる限 り人に喜んでもらえる（40代男性）</li><li>●関わる人全てにこいつと付き合って良かった と思われること（50代男性）</li><li>●人間関係が良好なるよう笑顔を忘れない （50代女性）</li></ul>

〈早稲田大学・原教授が考察「“働くこと”とやりがい　変わるべきもの」〉

## ■7割が新しい職業にチャレンジしたい　その背景には積極的動機と消極的動機の 両側面がある

今回の調査で、働く人の7割が別の新しい職業にチャレンジしたいと考えて いることがわかりました。なぜチャレンジしたいのか？ 今の社会背景から、 大きく二つの動機が考えられます。一つは、「新しい職業に関心がある」「自 分の力を試してみたい」という積極的な動機です。働き方の多様化や女性の社会 進出によって、「働くこと」の可能性や選択肢が広がったことに起因するも のですね。もう一つ、「今の労働環境を変えたい」という消極的な動機も考えられ ます。経済の低迷から、かつての日本では一般的だった終身雇用制が揺らぎ、 転職が肯定的に語られてきています。人生100年時代、リタイアしたくても できないというケースもあるでしょう。社会の変化と働き方の多様化により、 転職や職業選びに対する意識も多様化しているようです。

## ■人に寄り添う職業への注目 一過性の人気で終わらせず課題解決に向けた「考える契機」に

また、大人が今チャレンジしてみたい職業では「医師」をはじめとした医療職が、この30年間で生まれた新しい職業では「公認心理師」が人気を集める結果となりました。コロナ禍を経て、医師や看護師、介護士、清掃員、教師などの「人に寄り添う仕事」「人のためになる仕事」への注目が高まっています。こうした「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる職業は、コロナ禍によって注目度が高まりこそしたもの、その価値や社会的意義の大きさは昔も今も変わりません。医療職やエッセンシャルワークの人気を一過性のものとするのではなく、これらの職業にまつわる社会的課題や労働環境の問題をどう改善できるかというところまで、皆で考えるきっかけへと昇華させたいですね。

## ■仕事に「やりがい」を重視するのは不变の傾向 だが重要なのはその中身である

人が職業を選ぶ一番の理由が「やりがい」でした。仕事におけるやりがいとは、仕事に対するモチベーションの「入れ物」のようなものです。やりがいを持って仕事に取り組むというスキームは、おそらく100年前の人も持っていた不变のものでしょう。

しかし、その「中身」となるコンテンツは時代や社会で変化し、人それぞれで異なります。

やりがいがある仕事というと耳あたりがよく、それだけで十分と思いがちですが、入れ物ではなく、その中身が何なのかが肝心です。自分にとっての「やりがい」の本質を見極めないと、「やりがいがあるからこの仕事は正しい」という「やりがい神話」に陥り、やりがいの搾取や悪用などにつながってしまう危険もあります。特に合理性が求められる今の世の中においては、いかに成果を出すか、効率的に利益を生むかということを「やりがい」と勘違いしがちです。もちろんその視点も必要ですが、「自分の仕事が社会にとってどのような意味を持つのか」と問い合わせることも重要です。ノーベル賞を受賞された研究者の方々は、よく「目前の成果だけを目指していたら基礎研究はできない」とおっしゃいますが、同じことが仕事にも言えるでしょう。自分の仕事が、人々や社会とどのように関わるのかを俯瞰（ふかん）し、少しずつでも前進していくことが、本質的な「やりがい」ではないかと考えています。

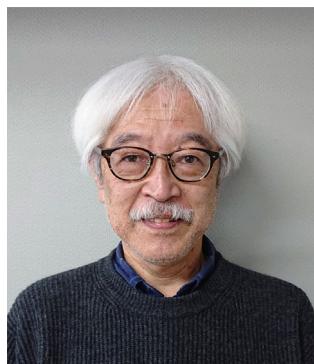
## ■あなたにとって「働くこと」とは？ 「自分の物語」を作る仕事の価値を問い合わせ直してみよう

この30年間を見ても、新しい職業が誕生し、在宅ワークなどの新しい働き方が広がると共に、ワークライフバランスも重要視されており、人生における「仕事の価値」が多様化してきているのではないでしょうか。前述のように仕事に社会的意義を探すこと、自分の生活を維持していくために仕事をすることも、「仕事の価値」として捉えることができます。自分の人生の一部である仕事が、「自分の物語」にとってどのような役割を果たすのか、見つめ直すことが必要な時代になってきたのかもしれません。

まずは、缶コーヒーでも飲みながら、自分にとっての仕事とは何か、また、自分にとっての仕事のやりがいとは何なのか、考えてみてはいかがでしょうか。

原 克（はら・かつみ） 早稲田大学教授

1954年生まれ。専門は表象文化論、都市論、ドイツ文学。19～20世紀の科学技術に関する表象分析を通じて、近代人の精神史、未来を志向する大衆の文化誌を考察・展開している。表象分析の手法で歴史的事象としての職業婦人を読み解いた「OL誕生物語 タイピストたちの憂愁」（講談社）、サラリーマンについて分析した「サラリーマン誕生物語 二〇世紀モダンライフの表象文化論」（講談社）など、多数の著書がある。



▽本件に関するお客様からの問い合わせ先

サントリー食品インターナショナルホームページ <http://suntory.jp/sbf/>

以上

**水と生きる SUNTORY**

「水と生きる」は、私たちがお客様や社会と交わす約束です。  
貴重な水を守り、水を育む自然環境を次世代につなぐこと。商品やサービスを通じて人々の心を潤すこと。  
水のように柔軟に力強く新たな価値創造に挑戦すること。  
これらの約束を果たすため、私たちは様々な活動に取り組んでいます。